

2026年6月16日

各位

会社名 株式会社インフォネット  
代表者名 代表取締役社長 古宿 智  
(コード番号: 4444 東証グロース)  
問合せ先 取締役 南嶋 将人  
(TEL. 03-5221-7591)

## 2026年3月期通期決算に関する質疑応答集2

当社の2026年3月期通期決算に関して、当社で想定しておりました質問および発表以降に株主・投資家などの方々からいただいたお問い合わせ、感想、および当社からの回答をまとめましたので以下の通りお知らせいたします。なお本開示は市場参加者のご理解を一層高めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆修正を行っております。

**Q1. 当期の売上未達要因が期つれである中、2027年3月の売上計画が低く思われます。業績計画の前提について教えてください。**

A1. まず外部環境におきましては、企業や行政におけるDX改革、特に安全なRAG型生成AIやAI検索への需要は非常に旺盛です。また、IRコミュニケーション領域においてもWebのみならずIRペーパーの需要が拡大するなど、当社グループへの引き合いは極めて堅調であり、市場環境が減速しているわけではございません。この旺盛な需要に対し、2027年3月期の通期計画においては、限られた社内リソースを単なる売上高の規模の拡大に消費するのではなく、「利益最大化」と「高効率化」へ集中させる前提で策定しております。

従来のCMSを中心とした単発の「受託請負ベース」から、高い専門性を持ったコンサルタントが顧客のDXや成果創出を継続して支える「伴走支援型」への転換を本格化させます。これにより、売上の「規模」よりも、1案件あたりの付加価値と「収益性（粗利益率）」を高めることを重視しています。また、AI活用による生産性向上を、部分的ではなく全体へ拡大させることで原価をコントロールし、確実に利益を残す構造を目指します。

売上高の成長率は前期比+7.4% (2,239百万円) に留まる計画ですが、売上総利益は1,033百万円 (前期比+208百万円)、売上総利益率は46.2% (前期比+6.6pt)、営業利益は137百万円 (前期比2.4倍の149%増) と、利益面において大幅な回復を果たす前提の計画となっております。

**Q2. 決算説明資料にある成長戦略について、今期の業績達成のポイントになる部分を中心に、改めて教えてください。**

A2. 成長戦略に掲げている「伴走支援型へのシフト」および「パートナー戦略による固定費の変動費化」は、今期は体制構築や仕込みのフェーズとなり、今期業績への直接的なインパクトは限定的と捉えております。

2027年3月期の利益回復（営業利益137百万円、前期比2.4倍）を直接牽引するポイントは、「社内AI活用による徹底した高効率化」と、好調な「AIサービス事業の成長」の2点と考えています。前期に実証したAI利用による効率化ノウハウを、今期はより広い範囲で定着拡大させます。業務コストをコントロールすることで確実に利益を残す構造を構築します。

また、AIサービス事業の収益を堅実に積み上げ、高利益率な事業から直接的に利益を創出します。

**Q 3. 持株会社制への移行の目的も含めて、今後の成長ビジョンを教えてください。**

A 3. 当社は2026年10月に向けて持株会社体制への移行検討を開始いたしました。その主な目的は、「グループ全体の戦略策定および投資機能」と「各事業の執行機能」を明確に分離することにあります。これにより、中核事業を強化・補完する事業をターゲットとした「戦略的M&A」を、これまで以上に迅速かつ機動的に執行できる体制を整えます。同時に、傘下の各社がそれぞれの専門領域における事業執行に専念し、質の高いサービス提供を追求できる環境を構築してまいります。

今後の成長ビジョンとしては、M&Aによってグループに新たな事業を順次加えていくことで、グループ全体の規模を拡大させてまいります。グループ各社がそれぞれの専門領域でサービスの質を極めつつ、網羅された顧客基盤とサービスを互いに活かし合うことで、グループ全体で利益を高めあうことができる強固な収益体制の実現を目指してまいります。

**Q 4. 描かれている成長カーブが大きく変わる時期とポイントを教えてください。**

A 4. 今期（2027年3月期）の足元における基盤整備や仕込みの期間を経て、2028年3月期から2029年3月期にかけて、成長カーブが大きく変わる（加速する）時期と位置づけております。

単発の受託請負ビジネスの枠を超え、高利益率なAI機能を含んだ高付加価値ソリューションが継続的に提供できる体制が整うことで、グループ全体の利益成長カーブが一段と上向くポイントになると考えております。

以 上